

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第6回

1. 実施日

令和4年6月25日（土）1・2限

2. 場所

1棟多目的教室、331・332・333・334教室

3. 対象

グローバル科2年生（6・7組）

4. 講師

大阪大学 全学教育推進機構 教授 堀一成先生
大阪大学 全学教育推進機構 准教授 坂尻彰宏先生
大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 准教授 柿澤寿信先生
大阪大学のTA 4名
鳥羽高等学校 教諭 山中脩平 三嶋千代子 藤原久美子 中村啓介

5. 内容

本日の内容の確認

作成した研究報告書 Ver. 2 をもとに、大阪大学の先生方やTAに対して構想発表を行う。

研究計画説明と助言

各チームが自分たちの研究計画を大阪大学の先生、TAの方に説明に機会を設けた。4つの教室に指導者2名を配置して、探究チームはそれぞれ、およそ25分で研究計画を指導者に説明し助言をいただく。1ターンで7チームがそれぞれ25分間じっくり大学の先生と対話できる時間がある。このターンを3回繰り返す。

全体講評

大阪大学の先生方やTAに、全体の講評をいただいた。

6. 学び

「研究」をするうえでの大切な視点であったり、データやソースの所在についてであったり、大小様々なことについて指導いただいた。大学の先生とゼミを行うかのように、じっくり対話する時間があったので、チーム毎に探究に関する様々な見方・考え方を広げる機会になった。教員側の生徒への指導の在り方についても大阪大学の先生方から伺うことができたので、これらを生かしたい。

7. 次回への課題

生徒は、単なる「調べ学習」ではなく、「研究」に取り組む難しさを知ることができたと考え

る。専門家の方々からの指導は刺激にもなり、足りないものを明確化することができたであろう。今後の授業で、これをどのように補っていくかが課題である。

8. 授業の振り返り

昨年度までは、8分間で、研究計画を発表と質疑応答を行い、最後に大学の先生から御講評をいただく形式だった。しかし、今年度は生徒と大学の先生とがじっくり対話する活動を充実させたいという思いで活動内容を昨年度からの発表形式から変更した。その結果、生徒にとっては非常に満足度の高い時間を創出することができた。一方で、「イノベーション探究Ⅱ」は探究の成果をポスターセッションで行う。ポスターセッションは、「イノベーション探究Ⅰ」で行ったパワーポイントを用いた口頭発表とは異なり、発表者が聴衆をファシリテートしながら進行する必要がある。そういった経験を事前に生徒にさせておくことが、この時期に必要なのではないかとの助言を大阪大学の先生にいただいた。「イノベーション探究Ⅱ」で求められる発表スキルの違いなどは今後指導する。チーム探究の在り方であったり、メディアリテラシーであったり、日頃から生徒に伝えていることについて先生方から指導をいただいたことから、方向性として間違っていないことを確認することができた。また、これにより後の指導でのフィードバックもやりやすくなった。

